偶感一束

岸田國士

青空文庫

賑やかな春の芝居も一向に心を惹かない。旅をしよう。旅をしよう。

旅と云へば、旅にゐて、都を想ふ、これも旅の楽しさ、なつかしさである。

まして、こゝ、灯は暗し、某々劇場の花ランプさへ、幻に、奇しくも美しい。

今年は……と、癖になつてゐるのか、人さまに済まないと思ふのか、僕は、ふと、考へる。今年は……と。

せつせと芝居を見よう。第一に、築地小劇場と新劇協会とを欠かさずに見に行かう——勿論、帰つてから。

第二に、能を観よう。友人のSが案内をして呉れる筈である——勿論、前の晩には、アスピリンでも飲んで、ぐつすり眠らなければ。

第三に、素人劇を見て廻らう。素人劇をやらうと思ふお方にお願ひします。前以て、僕のところへお知らせ下さい。

第四に、喜劇でも笑劇でも、さういふものをやる劇場へ行かう。

そして、何か見つけ出さう。

第五に……と、僕は、やゝ興奮する。

さて、第五に、僕は、もつと、どうかしたものを書かう。

これからは夢です。

その夢は、手短に話します。

政友会だか、革新倶楽部だか、そのへんの人々が、国立劇場同附属演劇学校創立案なるものを議会に提出し、満場一致で可決。

すると、東京市会では、いつの間にやら、市立劇場の建設について、実行委員を任命した。垣内博士、大河内輝氏、久野秀二氏等がそのうちに加はつてゐる。

すると、また、東京府では、府立演劇学校の生徒募集に着手した。校長は米塚信一郎氏、教師の顔触れは、菊沢廉造氏（俳優道徳）、溝口二郎氏（戯曲と人生）、水方呉吉氏（表現派発声法）等々といふ顔触れ。

帝国劇場は、四月興行女優劇に時葉北三といふ人の処女作、新感覚派劇「臍の苦笑」を演じて大当り。爾後、毎興行、新作物のみ上演と決定。幹部俳優大淘汰。文芸部独立。株主権限縮少。見物拍手喝采。

日刊演芸新聞「どらま」発刊祝賀会が、日比谷公園に催される。文部大臣が、希臘劇の発達より説き起して、大に演劇奨励の演説をやつてゐる最中、聴衆が総立ちとなる。

——地震だ。

馬鹿を言ふのはよさう。

湘南の一漁邑、こゝ、燈は暗し、某々劇場の花ランプさへ、幻に、奇しくも美しい。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集28」岩波書店
　　1992（平成4）年6月17日発行
底本の親本：「時事新報」
　　1925（大正14）年1月9日
初出：「時事新報」
　　1925（大正14）年1月9日
入力：門田裕志
校正：noriko saito
2011年2月8日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

偶感一束

岸田國士

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/